

— お客様に心からご満足いただける市バスを目指して —

市バス路線・ダイヤ編成の 基本的な考え方

26.3

もっと頑張る市バス スタート！

平成25年3月
京都市交通局



はじめに



- 京都市では、「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進するために、人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現を市政の最重要課題の一つとしてまいりました。
- 「歩くまち・京都」の推進に向けては、我々「市バス」をはじめとする公共交通機関の利便性を向上させて、クルマから公共交通への転換を促していくことが何よりも重要です。
- 現在、市バスは 1日32万人の方々にご利用いただいております。市内のバス輸送の85%を担う日常生活に欠かせない市民の足として、また、京都へ観光に訪れる方々の移動手段として、大きな役割を果たしています。市バスが市民・観光客の皆様にとって、更に利便性の高い公共交通機関となり、「歩くまち・京都」の牽引役となることが我々の使命と考えています。

- こうしたことから、京都の都市構造や人の動きに適した「便利でわかりやすい市バスネットワーク」を構築するため、旅客流動調査やお客様アンケート、学識者ヒアリングなどを行うとともに、「市バス路線・ダイヤ検討委員会」を設置し、基礎データに基づく分析と評価、今後の方向性についての検討を重ねてきました。
- 今後、この「基本的な考え方」に盛り込んだ内容を可能な限り反映させる新しい運行計画を策定し、平成26年3月に実施します。なお、その時点で反映できなかった内容については、以降、毎年春に行う運行計画の見直しの際に随時実施していきます。



現状の分析と評価

- モータリゼーションの進行や地下鉄の開業などの鉄道網の整備により、昭和50年代後半以降は長期にわたりお客様が減少し、事業規模（車両数・走行キロ）を縮小する時代が長く続きました。近年はお客様の減少に歯止めをかけ、収支改善を図りつつ、少しずつではありますが投資を拡充する方向にあります。
- 現在の市バス路線・ダイヤは、お客様の利用実績とご要望をもとに改善を積み重ねてきたもので、お客様の数も徐々に増加しつつあり、定着を見えています。
- お客様からは、概ね「わかりやすい」との評価を得る一方、定時性や乗継利便性、バス待ち環境の改善等についてご意見をいただいています。
- 学識者からは、現在の市バスネットワークは乗継ぎを極力少なくするお年寄りなどへの配慮や、碁盤の目の街路の特徴を活かす工夫など上手くできており市民の中に十分定着している。既存系統を活かしながら、主要系統を中心にメリハリのある路線・ダイヤとすべきとのご意見をいただいています。

今後の方向性

- 現在の市バスネットワークが持つ、「キメ細かい路線網」や「鉄道との乗継利便性」など、“優れた点”を活かしていくという観点で、様々な方策を展開します。
- 市バス路線・ダイヤについては、現在のものを基本としつつ、「より便利に」「よりわかりやすく」なるために、必要な取組を“プラス”することにより、更なる利便性向上を目指します。
- 情報提供の充実などの「わかりやすさの向上」により、観光で京都にお越しの方や、日々利用されていないお客様の利用促進を図ります。
- 市バスの利便性をより一層高め、利用促進を図ることを目指し、“費用対効果”を十分検討したうえで、事業規模（車両数，走行キロ）を拡大します。

基本方針

- 現在の市バスネットワークの持つ
“長所” “サービス” を維持します。
- お客様目線でサービス拡充を行い、
より一層ご利用いただける市バスを目指します。

基本方針を実現するための 4つの視点

1 お客様の利便性を第一に

- 日々ご利用いただいているお客様にとって、より便利で、使いやすい路線・ダイヤを目指します。

2 新たな需要を掘り起こす

- 新たなお客様のご利用を目指した取組を積極的に進めます。

3 「歩くまち・京都」の中核を担う

- “人と公共交通優先のまちづくり”を目指し、市バスの果たす役割を更に高めます。

4 「わかりやすさ」を追求する

- バスの行き先表示の一新など、“わかりやすい”市バスを実現します。

(1) 輸送力の増強

ア 主要系統の利便性の向上

- ご利用の多い系統について、積極的な増便を行い、運行間隔の短縮を図ります。
- お客様にとって、わかりやすく、覚えやすい「パターンダイヤ」化※を更に進めます。

11	9 24 56
12	10 32 47
13	4 18 40
14	6 27 50
15	8 29 44 59



● パターンダイヤ

11	0 15 30 45
12	0 15 30 45
13	0 15 30 45
14	0 15 30 45
15	0 15 30 45

※ 発車時刻が、毎時 0分-15分-30分-45分のような等間隔ダイヤのことをいいます。

イ 朝ラッシュ時間帯の増強

- 通勤・通学時間帯の車内混雑を緩和するダイヤ編成を目指します。

ウ 夜間ダイヤの増強

- 鉄道からの乗継が便利になるよう、夜間時間帯における増便や最終バスの発車時刻を繰り下げます。



エ 利用状況に合わせたダイヤの設定

- 旅客流動調査の結果をもとに、お客様のご利用実態に即したダイヤ変更や増便を行います。

オ 主要観光地を巡る「洛バス」の充実

- 快適に市内観光ができる新たな「洛バス」の運行を検討します。
- 洛バス車両のデザインを更に魅力あるものに一新します。



(2) 地下鉄をはじめとする鉄道との結節強化

ア 鉄道との乗継に便利なダイヤ編成の実施

- 電車の到着時刻に合わせたバスのダイヤ設定を進めます。
- 夜間時間帯における運行回数を増やします。（再掲）
- 最終バスの発車時刻を繰り下げます。（再掲）

イ 鉄道駅への接続を強化した系統設定

- 電車との乗継を便利にするため、
鉄道駅を経由するバスの運行を拡大します。
- 駅前広場への乗入れを積極的に行います。

(3) ダイヤどおりの運行の推進

ア 定時運行の確保に向けたダイヤ設定

- 道路混雑状況に応じたダイヤ設定に向け、停留所間の所要時間の見直しを引き続き行います。

イ バスがスムーズに走れるための取組の推進

- 停留所付近での違法駐停車車両に対する指導啓発活動など、京都府警をはじめとする関係機関との連携強化を図ります。

ウ 定時性が確保されていることのPR

- 全運行の9割※が定時から5分以内に到着していることなど、定時性に関するPRを実施します。

※ 平成23年度の運行実績データ

(1) 新たな市バス需要への対応

ア 潜在需要の掘り起こしを目指した取組の推進

- 地域と連携したモビリティ・マネジメント※の取組と一体となった市バスの路線・ダイヤの拡充を図ります。

※「過度に自動車に頼る状態」から、「公共交通などの交通手段を適度に使う状態」へと自発的に転換することを促す、地域等と連携した取組をいいます。

- 大学・商店街等と連携した利用促進に取り組みます。
- パーソントリップ調査※結果を活用した新しい系統を検討します。

※「人の動き」（パーソントリップ）を調べる調査で、交通行動の起点、終点、目的、利用手段、行動時間帯など1日の詳細な交通データ（トリップデータ）を得ることができます。

イ 大学・集客施設等への直行便の増強

- 主要ターミナルから、大学・集客施設・観光地・商店街などへの直行便の設定・充実を図ります。

ウ 沿線人口が増加傾向にあるエリアからの輸送充実

- 京都駅・四条界わい又は鉄道駅へのアクセス強化を図ります。

(1) 四条通の 歩道拡幅と公共交通優先化への対応

ア 公共交通優先化に見合った 系統・ダイヤのあり方検討

- 夜間時間帯の運行充実を検討します。

イ まちなかの回遊性を高める 「100円循環バス」の運行充実

- 現在、土・休日に一方向のみを循環運行していますが、両回り循環運行化や運行日拡大に向けた検討を行います。

ウ 停留所のハイグレード化

- 快適な歩道空間にマッチするハイグレードなバス待ち空間の創造を目指します。



(2) 京都駅南口 駅前広場のリニューアルへの対応

ア 新幹線口発着を活かした観光系統等の検討

- 観光系統「洛バス」や循環系統等の駅への接続強化を検討します。

イ 南部方面から京都駅へ接続する系統の南口発着化と増強の検討

(1) 案内表示の一新

ア 主要道路ごとに色分け表示する「ラインカラー案内」の導入

- 京都駅からのバスのルートを分かりやすくするため、南北の幹線道路ごとに色分けした案内表示を導入します。

イ バスの行き先表示や停留所での案内表示の一新

- 車両の方向幕をより見やすく、わかりやすいものにします。
- 京都駅前や主要停留所における時刻表や路線図等を見やすいデザインにします。

京都駅発・主要道路別「ラインカラー案内」の展開イメージ



- 西大路通
- 千本通・大宮通
- 堀川通
- 河原町通
- 東山通
- 白川通



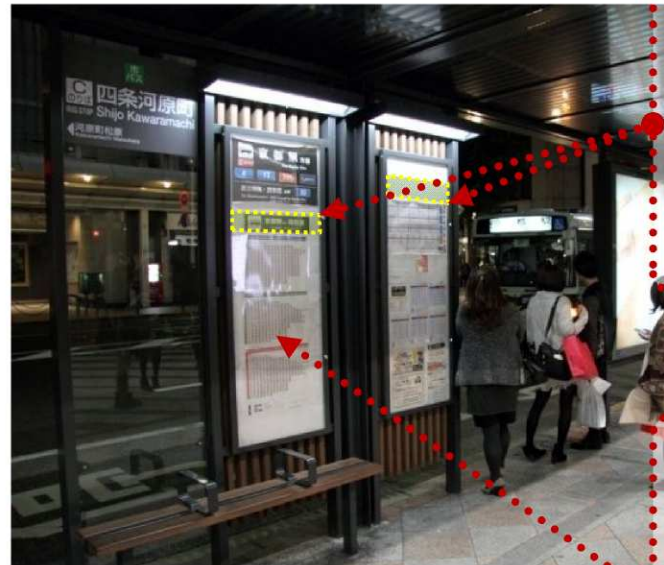
金閣寺 地下鉄	北大路駅	西大路通	205
Kinkakuji Via Nishioji-dori St.			
四条大宮 大徳寺 地下鉄	北大路駅	千本通	206
Kitaoji Sta. Via Senbon-dori St.			
二条城	西賀茂車庫	堀川通	9
Nishigamo Via Nijo-jo Castle			
四 条 河原町 地下鉄	北大路駅	河原町通	205
Kitaoji Sta. Via Kawaramachi-dori			

通り別にラインカラーを設定し、
バス方向幕などの案内表示等に展開します。

主要停留所における表示の展開イメージ



ユニバーサルデザインにも配慮し、バス路線のルートやのりばを分かりやすく表示します。



停留所での情報提供について、案内表示にピクトグラム（絵文字）を取り入れるとともに、同じ行先の系統のダイヤを統合して表示するなど、分かりやすさの向上を図ります。



日	平日	土曜日	日曜日
1	5:11		
2	5:21		
3	5:31		
4	5:41		
5	5:51		
6	6:01		
7	6:11		
8	6:21		
9	6:31		
10	6:41		
11	6:51		
12	7:01		
13	7:11		
14	7:21		
15	7:31		
16	7:41		
17	7:51		
18	8:01		
19	8:11		
20	8:21		
21	8:31		
22	8:41		
23	8:51		
24	9:01		
25	9:11		
26	9:21		
27	9:31		
28	9:41		
29	9:51		
30	10:01		
31	10:11		
32	10:21		
33	10:31		
34	10:41		
35	10:51		
36	11:01		
37	11:11		
38	11:21		
39	11:31		
40	11:41		
41	11:51		
42	12:01		
43	12:11		
44	12:21		
45	12:31		
46	12:41		
47	12:51		
48	1:01		
49	1:11		
50	1:21		
51	1:31		
52	1:41		
53	1:51		
54	2:01		
55	2:11		
56	2:21		
57	2:31		
58	2:41		
59	2:51		
60	3:01		
61	3:11		
62	3:21		
63	3:31		
64	3:41		
65	3:51		
66	4:01		
67	4:11		
68	4:21		
69	4:31		
70	4:41		
71	4:51		
72	5:01		
73	5:11		
74	5:21		
75	5:31		
76	5:41		
77	5:51		
78	6:01		
79	6:11		
80	6:21		
81	6:31		
82	6:41		
83	6:51		
84	7:01		
85	7:11		
86	7:21		
87	7:31		
88	7:41		
89	7:51		
90	8:01		
91	8:11		
92	8:21		
93	8:31		
94	8:41		
95	8:51		
96	9:01		
97	9:11		
98	9:21		
99	9:31		
100	9:41		

(2) 車内案内の充実

ア 新たなデザインを採用した市バス路線図の導入

- 地下鉄などとの乗継停留所や主な停留所間の所要時間を表示します。

イ わかりやすい車内アナウンスの充実

- 地下鉄などとの乗継をわかりやすく案内します。
- 外国人観光客のご利用の多い系統における英語案内放送を拡大します。

(3) 情報提供の充実

ア 市バス・地下鉄路線図等のリニューアル

- ラインカラー表示をリーフレット等のデザインにも取り入れます。

イ ICT※を活用した情報発信の強化

※ Information and
Communication Technology
情報・通信に関連する技術の総称

- 市バス・地下鉄経路検索サイト「洛ナビ」を使いやすくします。
- 現在、京都市で開発中のバス・鉄道乗換案内システム※において運行状況をお知らせします。



※ 京都市内を運行する鉄道・バスを利用して目的地まで行くルートを検索できるシステム

ウ 新たな情報提供の実施

- 停留所等において主な目的地までの所要時間を表示します。

■ みなさまへ

私たち、京都市バスは、
市民の皆様のご日常生活に欠かすことのできない生活の足として、
また、観光で京都へお越しになる方々の
便利な公共交通機関として、
京都のまちをきめ細かく運行しています。

今回お示した「市バス路線・ダイヤ編成
の基本的な考え方」に基づき、
お客様に心からご満足いただき、
これまで以上に親しまれ、
京都の人や京都のまちの元気を支える
市バスを目指してまいります。

